

# シャルロット・ペリアンと日本

2012年4月14日(土)→6月10日(日)

開館時間／午前10時→午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日／月曜日(ただし4月24日から5月6日までは無休)

観覧料／一般900円(700円)、大高生・65歳以上700円(550円)、中小生無料

障がい者は半額・その付添者1名は無料、( )内は20名以上の団体料金

主催／公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛／ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

後援／フランス大使館、日仏工業技術会、日仏美術学会、日本建築学会、日本建築家協会、日本インテリア学会

特別協力／Archives Charlotte Perriand, Paris

協力／AIRFRANCE  CASSINA IXC. Ltd. 

# Charlotte Perriand et le Japon

シャルロット・ペリアン(オンブル(影)) 1954年

Photo: Shizuka Suzuki ©Archives Charlotte Perriand - ADAGP, Paris & SPADA, Tokyo, 2012

目黒区美術館

Meguro Museum of Art, Tokyo

<http://www.mmat.jp>

# シャルロット・ペリアンと日本



20世紀の建築とデザインに革新をもたらしたシャルロット・ペリアン(1903-99)は、巨匠ル・コルビュジエとその従弟ピエール・ジャンヌレとの共同作業を経て、建築とインテリアに数々の優れた作品を残したフランスの女性デザイナーです。1940年の初来日以降、戦後もたびたび日本を訪れたペリアンは、日本を愛し、また多くの日本人に愛されてきました。本展では、戦前戦後を通じて日本のデザイン界に多大な影響を与えたシャルロット・ペリアンと日本の関係に注目し、彼女の功績を振り返ります。

シャルロット・ペリアンは、1927年のサロン・ドートンヌに出品した「屋根裏のバー」が認められ、ル・コルビュジエのアトリエに入所しました。そこでル・コルビュジエとピエール・ジャンヌレとともに手がけた鉄やアルミニウム、あるいはガラスといった新しい素材を用いた内装、「住宅のインテリア設備」を発表し、新時代の住宅のあり方を提言しました。

1940年にペリアンは、かつてル・コルビュジエのアトリエで同僚だった坂倉準三や柳宗悦の推薦により、商工省の「輸出工芸指導顧問」として初来日します。海外向けの工芸品の改良・指導を任された彼女は、柳宗悦を助手に日本全国をまわり、仙台の工芸指導所では若い研究員たちに素材の扱いやデザインなど、ヨーロッパにおけるモダン・デザインの実践方法を示しました。

また、「民藝」運動の推進者である柳宗悦や河井寛次郎とも交流します。「民藝」の理念に触れたペリアンは、地方に残る伝統的な意匠や技術を同時代の感覚と結びつける試みをしました。1941年の「ペリアン女史 日本創作品展覧会 2601年住宅内部設備への一示唆」(通称「選擇 傳統 創造」展)で発表した「竹製シェーズ・ロング」はそのひとつです。このほかにも、彼女が提案した竹や木を素材とした合理的かつ現代的なデザインは、当時の日本のデザイン界に強く深い示唆を与えました。それは戦後のデザインの領域で鮮明な流れを作り出し、今なおたえず更新されながら脈々と生きています。

1953年に再び日本滞在の機を得たペリアンは、1955年、東京で「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」を開催します。文案から着想した椅子「オンブル(影)」や違い棚をヒントにした書架「ニューアージュ(雲)」など、戦前の日本体験をデザインに生かした数々の名作を生み出しました。

パリにあるシャルロット・ペリアン・アーカイヴの全面的な協力を得て開催される本展では、家具、インテリアに関する図面、写真資料のほか、ペリアンが撮影した写真、日本の友人たちと交わした書簡など約500点を紹介します。ペリアンと日本人との間に生まれた感性の共鳴とその波及をたどります。



All Rights Reserved, Copyright ©Archives Charlotte Perriand - ADAGP, Paris & SPADA, Tokyo, 2012

- 1/「選擇 傳統 創造」展 高島屋会場、東京、1941年 Photo: Francis Haar
- 2/シャルロット・ペリアン「竹製シェーズ・ロング」 1941年 / 1985年再制作、Cassina
- 3/シャルロット・ペリアン、鏡子海岸にて、1954年 Photo: Jacques Martin
- 4/シャルロット・ペリアン「オンブル(影)」1954年 Photo: Shizuka Suzuki
- 5/「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」 高島屋会場、東京、1955年
- 6/ユネスコ庭園内(茶室)入口、パリ、1993年 Photo: Pernette Perriand-Barsac, Jacques Barsac

## シャルロット・ペリアン略歴

- 1903年 パリに生まれる
- 1927年 ル・コルビュジエのアトリエに入所(1937年まで)
- 1940年 商工省の招聘を受け、輸出工芸指導顧問として来日
- 1941年 東京と大阪の高島屋にて「ペリアン女史 日本創作品展覧会 2601年住宅内部設備への一示唆」(通称「選擇 傳統 創造」展)開催
- 1946年 仏領インドシナを経由して、フランスに帰国
- 1955年 東京、高島屋にて「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」開催
- 1985年 パリの裝飾美術館にて「シャルロット・ペリアン 生きる芸術」展開催
- 1996年 ロンドンのデザインミュージアムにて「シャルロット・ペリアン モダニスト・パイオニア」展開催(1998年には日本へ巡回)
- 1999年 パリにて逝去

## 催しもの

ギャラリーツアーなど関連の催しものを予定しています。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

## map



## 【交通案内】

- ・JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線=「目黒」駅(西口)から徒歩約10分
- ・東急東横線・東京メトロ日比谷線=「中目黒」駅から徒歩約20分
- ・東急バス=「権之助坂」(目黒通り) 下車徒歩約5分、「田道小学校入口」(山手通り) 下車徒歩約3分